

笛川ブロック交流研究会

『小中の連携を深めるとともに、
地域の様子や子どもたちの実態を知り、
指導にいかしていこう』

I 主題設定の理由

小中の連携を深めることは、地域の教育に必要なことである。本ブロックでは笛川中学校区で学ぶ児童・生徒たちをともに教育していくという立場から、児童・生徒の生活の基盤である地域について理解を深め、地域の自然・歴史・文化・産業などについて、臨地研修や体験活動などを行っていく。また、授業に役立つ学習会や小学校の授業参観を計画・実践している。こうした活動を通し、児童・生徒への理解を深め、教育上の課題を共有し、指導に生かしていく。

II 研究の内容

1. 第1回ブロック交流会（臨地研修）

8月6日（月）13：30～ 場所 牧二小，牧三小，三富小地区

地域の文化を知り，教師間の交流を図る

牧二小学区「こんにやくづくり」 講師：岡久 様

牧三小学区「塩平獅子舞についての学習会」

講師：藤原俊彦 様，「新郷会」様

三富小学区「大獄山 見学」 講師：日原盛幸 様，湯本光子 先生

2. 第2回ブロック交流会（中学校の部活動見学・交流会・情報交換会）

11月14日（水）15：00～ 場所：笛川中学校

部活動見学 各部の活動状況について

交流及び情報交換会

3. 第3回ブロック交流会（小学校の授業参観・交流会・情報交換会）

1月23日（水）14：15～ 場所：牧丘第一小学校

第1学年 国語科 「おみせやさんごっこをしよう」

指導者：丸山 英子，保坂 美鈴

第2学年 算数科 「長さをはかろう」

指導者：岡村 理恵

第3学年 道徳 「誰のために？」

指導者：山本 和香子

- 第4学年 英語活動 「クイズを楽しもう」
指導者：新海 直仁
- 第5・6学年 算数科 「四角形と三角形の面積」
指導者：倉田 和美，岩下 城

III 成果と課題

1. 成果

- 臨地研修は地区の自然・文化・史跡・歴史・風習を知る良い機会となった。子ども達が育っている環境を知ることは、子どもと接する上でとても大事なことだと感じた。地域の話の聞いたり実践的な活動（こんにやくづくり）をしたりするのは、とても意義がある。また、地元の方々が講師というのもよかった。講師の方がとてもいねいに説明してくれた。他地域から来ている教職員にとっては、貴重な体験である。企画や参加が大変な面もあるが、継続していきたい。
- 中学校区内の小中の連携を深め、共通理解の中、同じ地区の児童生徒の育成について研究する良い機会となった。
- 中学生の様子を見れたことは、小中の連携という意味でも大切なことだと思う。小学校を卒業した子ども達が、一生懸命活動している姿を見ることが出来て良かった。また、小学校の授業を参観することも、同じ中学校区の子供達を教育しているのだという連帯意識を高められるので、良かったと思う。
- 小学生が遊ぶ様子、教師の授業方法やスキルを見ることが出来た。今後小中の連携はますます必要とされるので有益であった。
- 交流会の中で、各校の宿題の様子や、家庭学習の取り組みの様子を聞いて良かった。また、各学校の施設設備など、参考にすることが出来た。
- 小中の枠を超えて、一緒に活動したり相互の教育活動を見たりする事により、こどもの発達や教育の流れを知る事ができ、理解が深まった。

2. 課題

- ▲ 分科会にするなどして、もう少し意見交換がしやすい雰囲気を作ったらどうか。低・中・高ブロックに分かれるなど・・・。
- ▲ 地域の事でもっとも学校教育に生かせるものがあるとしたら知りたい。
- ▲ 研究会の際に、討議の内容がいくつか具体的にありともう少し意見交換が出来たかな？と思う部分もあった。
- ▲ もう少し活発な話し合いができると良い
- ▲ 内容は工夫されていて勉強になったが、11月、1月に行うと、校内研の時間を確保できない（授業研究、研究のまとめに向けて）。できれば「時期を変える」「回数を減らす」ということはできないのだろうか。

(ブロック長 酒井 幸政)